

## 日本色彩学会活動功労賞・査読功労賞

## 日本色彩学会活動功労賞と査読功労賞を受賞して

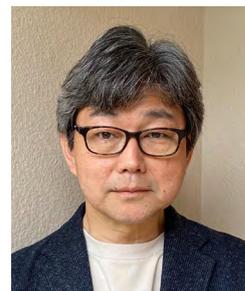
## Greeting of receiving the CSAJ Activity Contribution Award and the CSAJ Paper Review Contribution Award

名取 和幸

Kazuyuki Natori

一般財団法人日本色彩研究所

Japan Color Research Institute



この度は、日本色彩学会活動功労賞と査読功労賞という、大変名誉ある2つの賞を同時に賜りまして感謝申し上げます。そして、これまで歩みを共にしていただいた多くの方々から御礼申し上げます。

私が色彩学会に入会したのは1995年のことでした。そして1998年に学会誌編集委員会に入り、数年のブランクを経て昨年度に退任するまで、延べ19年にわたり色彩学会誌の編集に携わってきました。さらに『色彩学』の編集委員はもう一年あるため、ちょうど20年間学会誌づくりに関わったこととなります。その間委員長は5年間務めました。以前は任期の規定がありませんでしたから長期の所属があり得たのです。一ちなみに最長は1972年の会誌スタートから34年にわたり編集委員を務められた(うち委員長を18年!)永田泰弘名誉会員です。定期刊行学術誌としての形を作り上げられたのは氏の大きな功績の一つです。一さて、私が委員長の時代に取り組んだのは、論文の投稿から査読、審査までの標準システムの確立でした。2013年に論文投稿と論文査読の手引きを制定し、それに合わせて論文執筆要領を改訂し、新たに論文審査のワークフローを発表しました。といっても、これらは故小林光夫先生の労作を皆でまとめたものでした。先生は多くの他学会誌や単位系の記述などの資料を集めて検討を重ね、原案を作られ、それを編集委員会で検討修正、公開いたしました。当時を振り返ると、小林先生を始め、辻埜さん、大住さん、眞鍋さん、坂本さん他の方々の方々の顔が浮かびます。皆さんからは様々な色彩学と業務、対応の進め方を学ばせていただきました。その頃は学会誌関係のメールのやり取りが本当に多くて忙しかったのですが、充実していた日々でありました。

そして2016年に色彩学会誌編集委員を退任し、関東支部から声がかかり支部の役員となります。実はこれが初めての支部役員でしたが、小松原支部長の退任に伴い、あろうことか同時に支部長の役につきまします。編集委員会の活動は長くても支部運営は何も分からず、最初の支部総会の時などは進行が分からず酷いも

ので今思い出しても冷や汗が出ます。ベテラン揃いの支部の皆さんに助けていただいた支部長4年間でした。活動はそれまでの見学会、講演会、講習会、公開シンポジウムを踏襲したもので大きな変化はありませんでしたが、支部メルマガを身近なものにしようと、支部の役員がリレー形式で色に関わる記事を書くパトタッチメルマガの配信を2017年に無謀にも隔週配信として始めました。これは自分と編集の光武さんをスケジュール的に追い詰めたのですが、それはそれで楽しかった思い出です。

理事は学会誌編集委員の時に一度お受けして、関東支部長のときには同時に副会長の任にもつきました。大したことはできず、何故か2019年5月の学会事務局の引越のことが記憶に鮮明です。喜多監事に車を出していただき、目白の事務局の荷物の一部を今の事務局と一緒に運び入れたことを思い出します。

ところで、査読については、私は編集委員として査読者を選んでお願いする役回りをしてきましたので、それほど多くの査読をしたという認識はありませんでした。ただ、編集委員会において多くの論文を担当することで、査読結果を読みその妥当性を評価してきた数は多いでしょうし、また査読に対する責任は理解しています。なお、査読を担当することによるメリットや自己研鑽について、昨年査読功労賞を受賞された岡嶋、溝上両先生が『色彩学』第1巻第3号に書かれています。ご一読をお勧めします。

これまで、私としては周囲の方々のお借りしながら、自分が好きなことをただ続けてきただけですが、このような名誉ある賞をいただけるというのは大変恐縮しています。これからも色彩学会を通して「色彩」が社会に広がり、色彩学会がさらに豊かに発展していくことを祈願します。私はそうした素晴らしい学会に出会い、そして活動を続けることができ大変に幸せでした。引き続き、学会や支部の活性化にお役に立てるようなことをもう少しだけ続けて参りたいと考えています。引き続きよろしくご厚意申し上げます。